

《《 軽量で安価な義手の販売促進に 》》

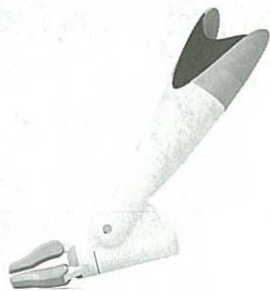
超モノづくり部品大賞を受賞

ダイヤ工業 大学など4者で開発

医療用品製造販売のダイヤ工業(株)(岡山市南区古新田1125、松尾正男社長、電086・282・0377)は、軽量で操作性に優れ、安価な電動義手「フィンチ」の販売促進を

図る考えだ。従来、電動義手は筋肉を動かす際に発生する微量の電流・筋電を利用するケースが多かったが、センサーで感知するなどで、軽量化と低価格を実現した。

製品は国立リハビリテーションセンターと東京大学、大阪工業大学との4者で共同開発。製造をダイヤ工業が担う。機器は筋肉の動きに合わせて隆起する皮膚の動きをセンサーで読み取り、義手の指先部分を開閉する。義手の指先は従来機器が2指だったものを3指にし、500gの重量まで対応出来る。製造には3Dプリンターを用いるなどで、従来機器が100万円以上だったものを15万円と安価にした。



finch
alternative hand



義手「フィンチ」(右)と装着例

「フィンチ」は10月、モノづくり日本会議と日刊工業新聞の共催で行われた「2016年超モノづくり

部品大賞」健康・バイオ・医療機器部品賞を受賞。今後も認知度の向上を図っていく。販売は直販と全国の義肢装具業者が行い、大学病院などでも導入されている。

松尾社長は「超モノづくり部品大賞は昨年の職人DARWINに続き、2年連続の受賞となった。これを機に義手を使う人が増えれば」と期待を寄せ